

## 令和7年度第2回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
山本委員	資料1 【御意見】	「4-9月」障がい者生活支援センター集計について 対象期の生活支援センター別の実態が良く分かって良いと思います。 欲を言えば、これを時系列別に比較できると見方も変わるのではないのでしょうか？特に、各支援センター「合計件数」の支援内容別・ニーズ別件数の年度別比較 ……対象期間によって日数が異なるため、「日当たり件数」も併記して見る。日当たりという原単位のため動向が分かり易いと思います。	事務局
	資料2 【御意見】	相談事業所 相談に関する報告について 期ごとに、新たな複雑・複合的な課題、SNSがらみの借金・詐欺など金銭管理などの難しい課題が蓄積され、相談員さんの仕事の負荷が心配されます。先行きを見据えた時、人材不足の中、高まるニーズに対応する為には、仕事のやりにくさの改善・小さな無駄排除の積み上げなど効率化が求められ、組織的な改善への取り組みの検討も必要ではないでしょうか？ 例えば、ターゲットを設定した改善プロジェクトとか、携わっている方の現場目線からの提案の吸い上げによる無駄排除（創意工夫提案制度）など。	各支援センター
	回答	仕事のやりにくさの改善、小さな無駄排除の積み上げなどの効率化はとても大切なことで、貴重なご意見と思います。ただ改善のための新たな会議を行うなどするとそのための時間を捻出する必要があるかと思しますので、市や委託の事業所の共通事項であれば連絡会の中で、事業所単位の事項であれば日々の活動の中で検討して改善していければと思います。	春日苑
	回答	「就労継続支援A型事業所及びB型事業所、グループホームがどうしたら利用できるか」などの基礎的な制度説明はすべて支援センターに紹介されなくても、障がい福祉課の窓口でマニュアル化やデジタル化するなどはハローワーク窓口ですすでに対応されているようにタブレットなどで可能かもしれません。しかし、やはりそこから個別な相談が必要な方かどうかなどは人（窓口担当職員）によって判断しないとできないことかと思えます。そこから先、支援センターへ繋がったケースを振り返るとやはり個別に生活歴もニーズも違い、効率化はなかなか難しい分野かと思っています。	まある
	回答	複雑、複合的な課題、困難な事例などに対応していくことは一相談員、一事業所では難しく相談員の負担も大きいため、各関係機関の連携は必須だと感じています。その中で、かすがいネット連絡帳などのICTを活用したシステムなどの導入をさらに進めていくことや、連携しやすい体制づくりに取り組むことなどが大事だと感じています。業務の効率化については、相談支援研修会や連絡会などでも意見が出ており、今後も検討し改善していく必要性を感じています。	かすがい
	回答	相談支援では関係機関との連携も重要で、やりとりに時間を要します。入退院等の連絡など内容によっては、共通のコミュニケーションツールがあることで効率的に連携がとれると思いました。どの機関も簡単に導入できるツールがあるとよいと考えました。	なないろ
	回答	相談者の相談内容には、個別性の高いものが多くあり、相談業務の中での効率化は難しいと思っています。ただし、市民向けの説明資料やQ&Aの作成、市窓口でのアセスメントのマニュアル化などを行うことで、より専門性が必要な相談に時間をかけることができるかもしれません。また、ICTの活用（リアルタイムで事業所情報を受け取れる仕組み作りやかすがいねっと連絡帳の普及）などで、事業所調整など事務負担を減らすこともできるかと思えます。 今後も相談対応の時間を捻出するための業務効率化を図っていく必要はあり、事業所内でも精査している状況です。	しゃきょう
	回答	相談員の負担を心配してくださりありがとうございます。 複合的な課題や難しい課題は、各関係機関との連携は必要不可欠であり、情報の共有や役割分担をしながら対応をするため、時間がかかります。さらに、日々の業務の中で、時間の無さを感じている相談員も多いのではないかと感じています。自事業所の中であれば、業務効率化のために業務内容の振り返りや見直し、変えられるところは変えていくことができると思います。しかし、組織的な改善や取組になると、目指すべき業務の効率化を擦り合わせたり、検討したりする必要があると思います。	あつとわん

## 令和 7 年度第 2 回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
山本委員	感想	<p>障がい福祉に関し多大なご支援を頂き、大変感謝しております。</p> <p>益々複雑・複合的な事案が多くなり、2040問題などが目前にせまり先行き不安を感じますが、障害福祉サービスは年々進化しており、大変心強く思います。</p> <p>その反面、サービスに繋がっていない人もまだ多くおられると思います。サービスに繋がれていない人が、サービスへ繋がれることが地域共生社会実現に大事なことと感じております。</p> <p>私ども家族会は、「福祉サービスに繋がっておくことが緊急時の備えになる」ことを念頭に置いて活動をしています。</p> <p>むつみ会では、障がい福祉課支援のもと1回/月の「ふらっと家族交流会」で不安の中にいる新たな精神障がい者家族に対して ①孤立を乗り越えてきた体験者と交流し家族対処法を身につける ②正しい病気の知識を学ぶ③障がい福祉を学び・活用する事で当事者が自立でき、家族が自信と希望が持てるよう取り組んでおります。いかに不安の中にいる精神障がい者家族に繋がれるか模索しています。</p>	
原委員	資料 2-1 ～ 6	各相談支援事業所の相談に関する報告によると、共通の課題として、金銭管理、外国籍の家庭、医療的ケア児の利用可能な社会的資源や人材不足、障害の特性により支援が受け入れられない、支援の情報が届かない等様々な事が以前から続いている大きな問題であり、また、多くの所でも抱える問題と思われませんが、他県の自治体や関係機関等の好事例を共有する機会等がありますか？	各支援センター
	回答	他県の自治体や関係機関等と意見交換や情報交換をする機会は多くなく、全国的な研修に参加した際に意見交換をする機会がある程度です。	春日苑
	回答	県内の相談支援機関や医療機関等との研修会や情報共有の機会はありますが、各自治体・市町で相談支援体制も違う中、どこも困っており好事例を共有する機会、さらには県外と言われるとないです。この話題に限らずモデル事業をやった実践報告等は情報として入ることはあります。	まある
	回答	他県の自治体や関係機関等との情報交換をする機会は少ないです。他県の研修会などの内容をみても、同じような問題を抱えている印象があります。	かすがい
	回答	他市と情報共有する場はありますが、他県の情報を得る場は研修参加や自身で調べるくらいしかありません。	なないろ
	回答	研修会を通じた情報収集の機会はあるのですが、他県となると研修も参加する機会がなく、直接的な情報共有の機会もありません。	しゃきょう
	回答	金銭管理、外国籍の家庭、社会資源の不足、人材不足などの共通の課題については、各市町の状況を地域アドバイザーからも聞くことができます。しかし、各市町や関係機関等と直接の情報交換は少なく、他県においてはありません。困難事例を検討する場はあっても、好事例を共有をする機会もありません。	あつとわん

## 令和7年度第2回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
佐藤委員	資料2-1	○お金の使い方の件 学校でも機会をとらえて（わかりやすい例として、修学旅行のお小遣い）お金の使い方を指導しています。しかし「小学生（中学生）だから」という枠のある間は大人の顔色を見て自制できる（させられる）けれど、なかなか実質の意味でというか、こちらが思うような使い方（持ち金の中でやりくりする、計画的に使うなど）は身につかないようです。「小さいうちにこういうことを」というリクエストがあればぜひ伺いたいと思います。	各支援センター
回答		障がい者の金銭管理でよく起こる問題としては、使い過ぎや金銭管理ができないための不足や滞納、詐欺被害に遭いやすいことなどが主ですが、こういった課題を減らすために、小さいうちに学べる機会を持てるのは大切だと思います。一般論としてはお金の大切さを覚えてもらったり、使ったらなくなるという小さな失敗を積み重ねて身をもって学んでもらったり、また、目標を決めてお金を貯める経験を積んでもらったりすればよいかと考えます。ただ、障がいのある子はその障がいの種類によって支援の方法は変わってきます。そのため個々で学校と相談機関が協力して支援していければよいかと考えます。	春日苑
回答		精神や発達障がい特性のある大人の方たちに接する機会が多いまあるとして良く感じるのは、金銭管理に限らず「仕方がない」ということを、子どものうちから教えたり、経験しておいてもらいたいと思うケースは多いです。お金もそうですが、さまざまな要求も自分の思った通りになることばかりではない経験もし、我慢すること、待つ練習をすることも必要だと思っています。障がいがあっても何でも許される訳ではないこと、自分の行動には自分で責任を持つことも教えて、体験していつてもらえると将来が変わってくる人もいると思っています。	まある
回答		想像することが苦手で先の見通しが持てなかったり、知識の定着にも時間がかかる特性の方が我々の支援の中で多いです。幼少期からお金の使い方や詐欺被害について最悪の状況も含めてわかりやすく繰り返し学べる機会があるとよいと思います。ご家庭でもお金の使い方や我慢することを教育できるとよいのですが、家族の支援力が乏しい家庭もあるため、学べる機会を学校など家庭以外の場でも取り組んでいけると良いと感じています。 今はスマホがあれば簡単にお金を借りられたり、物を購入できますのでスマホを持つことで想定される危険性なども学生のうちから学べる機会があると良いと感じております。	かすがい
回答		幼少期からお金を使って小さな失敗や成功体験は大切だと思いますが、障がい特性や生育環境の影響は大きいかと思います。また、実際のお金を持たなくても買い物ができる時代になっているので、お金の実態を感じにくくなっていることも難しいと感じます。どうしても無くなる前に誰かに相談できる力が必要ではないかと思うので、幼少期から大人が話を聞いてくれたという経験が必要かと感じます。	なないろ
回答		金銭管理の成功体験だけでなく、成功しない体験もあると良いのではと思っています。金銭管理の体験は、障がいの有無に関わらず、必要だと思います。障がいのある子においては、その子にあった方法を模索しなければならないですが、機会提供は必要と感じます。 ネット・SNS等を介した金銭トラブルも多くあり、今後も巧妙になることも考えられます。ネットの正しい活用方法なども、学校だけでなく療育の場や家庭において協力しながら学べるとよいと思います。	しゃきょう
回答		障がい特性によってお金の使い方を教えていても、本人が理解できなかったり、何度も繰り返してしまったり、他者が思うようなお金の使い方できないことがあると思います。家庭の背景も影響している場合もあり、親の価値観や親自身も計画的にお金を使うことが苦手な人もいます。 子どものうちにできることは、お金のこと以外にも言えるかもしれませんが、小さな失敗や成功体験から一緒に考えてくれる人や学べる機会があると良いのではないかと思います。	あっとわん

## 令和 7 年度第 2 回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
佐藤委員	資料 2-4 【感想】	○アセスメントの件 現状、学校でのアセスメントの力は弱く、教員の経験や力量に頼るところが大きいです。1歳6か月児健診、3歳児健診、就学時健診や就学相談その他の機関やチャンスをつまみつなげ、アセスメントできるシステムがあってもよいのではないかと思います。	あつとわん
	回答	福祉分野でのアセスメントを実施する目的は、本児や家族の状況、本児が将来希望する暮らしや家族が希望する本児の将来の暮らしなどニーズを正確に把握し、本児が将来希望する暮らしに近づくためにこれから本児に対して特に必要なことなどを聞き取り、障がい福祉サービスの利用の目的を整理しています。しかし、アセスメントの質については、課題があると感じています。 各関係機関での本児の発達や家庭の状況は、しっかりと把握され適切な関わりや情報提供をされていると感じます。しかし、例えば母子保健から療育へのつなぎ方、医療から療育へのつなぎ方などつなぎ方のしくみや体制が整理されていないのではないかと感じています。	あつとわん
佐藤委員	資料 2-6 【御意見】	○外国籍の子供たちの社会資源の不足 福祉、学校教育だけでない、たとえば社会教育レベル（公民館など）でのサポートがあれば感じています。またその一方で、当該の子どもに発達障がいのような状況がある場合、それをどのように伝えるか、通訳のサポート（外国語と発達支援の両方に明るい人による通訳）があると助かるなあと思っています。 春日台特別支援学校にはたくさんの外国籍の子供が通っています。そこではどのように意思疎通をしているかお尋ねしてみると、参考になるのかなあと思っています。	
原委員	資料 2-1 ～6 【御意見】	問題が別かもしれませんが、生活支援が必要となる外国籍家庭については、最初に日本語力や日本における一般的な日常生活のルール等を、親子でしっかり学ぶことが出来る仕組みが必要。日常生活に問題が無い状況になれば、就労にも繋がる可能性は高くなることから、福祉関係に限らず人材不足の解消に少しはなるのかも。	
夏目委員	感想	各機関が、障がいの特性に寄り添った多様な相談に対応されていることがよくわかりました。 今後、災害対策として、医療的ケアが必要な方の確認台帳様式や、情報シート等を統一して作成される場合には、保健所の難病及び小児慢性疾患の様式もすり合わせていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。	
山本委員	資料 3	「就労選択支援」について内容・特長など教えてください。	事務局
原委員	資料 6	7月に開催された「はたらく福祉事業所フェア」での、次年度への改善点とは具体的にはどんな問題ですか？	事務局